

気候変動適応に関する研究機関連絡会議（第2回）
議事概要

日 時 : 令和3年3月30日（火）14:00～16:00

場 所 : Zoom

議 題 :

1. 気候変動適応に関する最近の動向について
2. 令和2年度気候変動適応の研究会の開催報告
3. 今後の気候変動適応の研究会の活動等について
4. その他

出席者 : 「気候変動適応に関する研究機関連絡会議（第2回）出席者名簿」参照

議事内容 :

・議題1について

事務局より、資料1に基づき「気候変動適応に関する最近の動向について」の説明があり、質疑はなかった。

・議題2について

事務局より、資料2に基づき「令和2年度気候変動適応の研究会の開催報告」の説明があり、質疑はなかった。

・議題3-1及び3-2について

事務局より、資料3-1及び3-2に基づき「令和3年度気候変動適応の研究会の活動方針（案）」「気候変動等に関する情報の収集・整理・分析及び提供に係る依頼事項及び国際的な情報発信活動等のための新規WG設置について（案）」の説明があり、事務局提案に対する賛同の意見とともに、次のような意見があった。

- 海洋に関する政府間会合でも地域活動が重視される傾向にあり、日本の活動がアジア太平洋諸国にインプットされ活用されることは素晴らしい。
- シンポジウムで交流を広げてワークショップやワーキンググループで具体的に詰めていくのは非常に良い流れ。
- グループを引っ張っていける人材の育成とともに、ボトムアップで色々な議論がなされるということが非常に重要。
- 地方公共団体や産業界の方々などの様々なステークホルダーにシンポジウムの段階から是非参加していただいて、防災だけではなく気候変動にどのように対応していくかについて、こういったニーズがあるか直接話ができると良い。
- 地域適応センターの母体によって取り組み方や関心が違うと思われるので、ワークショップなどの開催前にこういったニーズがあるのか分かると良い。

- ▶ 現場の要望は、地域の気候条件等を反映して色々なバリエーションがあり、気候変動適応の場合は更にそのスコープが広がるため、こういったものがそれぞれの地域で優先度の高いニーズとして挙げられているのかを共有できる機会になれば良い。
- ▶ 国環研の A-PLAT や AP-PLAT だけでなく、防災科研でも防災クロスビューのような情報集約と展開システム作りに取り組んでいるところであり、他の機関でも同じようにデータベースを持っていると思われるので、より使いやすい形になるよう連携するため、継続的に議論できるような場を作ってもらいたい。
- ▶ 研究のテーマに結びつくような戦略の立案については、JST の CRDS（研究開発戦略センター）において様々なワークショップの経験があり、ファンディングに繋がるようなイメージを持った形での議論が可能。

また、現場から国立環境研究所にどのような要望が寄せられているか質問があり、事務局より、各地域の気候変動及び影響の将来予測に関するデータの所在や活用方法、有識者の紹介、適応策事例等の要望がある旨の回答がなされた。

配布資料：

資料 1 気候変動適応に関する最近の動向について

資料 2 令和 2 年度気候変動適応の研究会の開催報告

資料 3-1 令和 3 年度気候変動適応の研究会の活動方針（案）

資料 3-2 気候変動等に関する情報の収集・整理・分析及び提供に係る依頼事項及び国際的な情報発信活動等のための新規 WG 設置について（案）

以上